動物愛護、関心持つべき

ペットと生きる ブームの裏で ①

県内10年で犬猫8748匹

近年減少も苦悩する獣医

殺処分 身勝手の末に

「命の教育」へ新施設 今春県が設置

稲田 侑羽（いなだ ゆう）さん（福井南高２年）

先日、総合的な学習の授業で発表会が行われ、動物愛護について発表したグループがこの記事を資料として取り上げたことで、私もいろいろと考えさせられた。理由で、健康福祉センターに犬の引き取りを求めてきた人がいるというのには大変驚いた。いったん飼い始めた以上は、最後まで面倒を見るのが飼い主としての責任なのに「命を何だと思っているのだ」とペットを飼っていない私でも非常に怒りがこみ上げた。

県内では、犬猫の引き取りや殺処分が大幅に減ったというのはせめてもの救いである。動物愛護の業務にあたっている方々の努力が本当に大きいのだと思う。整備が進められている、ふくい動物管理指導センターにおいても、動物愛護に関するさまざまな活動が計画されているが、私たちは動物愛護についてもっと関心を持つべきである。命に大きいも小さいもない。かけがえのないものなのだから。